

「専門工事業の担い手確保・育成」 に向けた訓練体系の構築

～関西鉄筋工業協同組合の取組について～

地域連携ネットワークの構築及び事業の実施について

3団体で連携・各種学校等と協力

関西鉄筋工業協同組合

近畿建設躯体工業協同組合

関西圧接業協同組合

関西地区の工業高校

関西地区の専門高校

出前講座・建設技術展など

地域における若年者の人材確保・育成に向けた職業訓練体系の構築

業界の広報活動やイメージアップを図っていく

出前講座の開催

○実施概要

大阪府立東大阪高等職業技術専門校（ものづくりカレッジ）を訓練施設として、高校生等を対象にした合同出前講座を開催。鉄筋、型枠、とび（足場）、圧接の4職種を体験してもらった。二日間の合同出前講座では3校の約360名が受講した。

平成27年10月7日（水）

- ① 9:00～11:30大阪府立布施工科高校の2年生40名
- ② 12:00～14:00神戸市立科学技術高校の2年生77名

平成27年10月9日（金）

- ① 9:00～12:00 修成建設専門学校の1年生など239名
- ② 13:00～16:00 // （2回に分けて実施）



出前講座の開催

○生徒たちの感想

これまでの建設業に対するイメージはとにかく力仕事でしんどいものと思っていたが、今日の講座で各仕事の楽しさややりがいなどを教えてもらいとても良い勉強になった。



ほとんど機械で仕事するものだと思っていたので手作業の部分もあることが分かった。

4つの職種についてどのような仕事をし、何のためにしているのかなどが良くわかった。

完成した時の喜びや達成感を味わうためにみんな必死になるんだと思った。

私は設計志望なので現場をよく理解し、お互いの関係が良くなるようにしていきたい。

※受講後に生徒たちに興味を持った職種(複数可)を挙げてもらった結果、あまり差はなかったが、圧接、鉄筋、型枠、とび(足場)の順であった。



女子でも圧接ができるのであれば将来私は圧接をやりたい。



関西鉄筋工業協同組合

出前講座の開催

○先生方の感想



躯体工事を一連の流れの中で体験することができ、生徒たちも理解が深まったと思う。

4つの職種を20分サイクルで体験したが、もう少し時間が取ればもっと良かった。

職人さんの手ほどきを受けながら各作業に真剣に取り組む生徒たちの表情は輝いていた。実物に触れる楽しさや建設物が残る喜びを知る機会となったことで生徒たちには貴重な経験となった。

出前講座は生徒や先生の反応もよく、手ごたえがある

出前講座の開催

○今後の取組

- ・開催時期について学校側との調整を図る

学校行事等の関係で6月と10月の開催希望が多いので、去年はアンケートを取って開催日を決定した。今年も新年度早々にアンケートを実施する予定にしている。今後6月と10月に開催時期を固定していくことも検討する。

- ・マニュアル化を図る

これまでの2回の開催経験を踏まえ4職種の作業内容やタイムスケジュール等についてマニュアル化し、限られた時間の中で効率よく講座を進めていく。

- ・対象の拡大

高校生だけでなく中学生や小学生まで実施対象を広げていくことを検討する。

第2回専門工事業担い手確保・育成委員会

平成27年12月21日（月）16:30～18:00 建団連会館・8階会議室

（出席者）

古阪秀三京都大学教授をはじめ学校の教諭など15名の委員のうち13名が出席。今回から大阪労働局の担当者も新たに委員として出席した。

（岩田理事長の挨拶）

従来の出前講座だけで終わるのではなく、大阪や兵庫、京都といった地域単位での訓練施設を活用するなど、実施事業に移行した今後の2年間で将来の担い手確保・育成につながる新たな仕組みづくりに取り組みたい。



（意見交換の内容）

- ・圧接などほとんど見る機会がなく、今回間近で実際に見ることができて良かった。
- ・学生たちも躯体工事を一連の流れの中で体験することができ理解が深まったと思う。
- ・見学していた先生たちも出前講座の効果に驚いていた。
- ・従来のように1つの職種だけでなく、複数の職種を一連の流れとして体験することは理解も深まるし良いことだと思う。
- ・出前講座の目的は生徒たちにモノづくりの楽しさを伝えることで業界に興味を持ってもらうことだ。
- ・合同出前講座とは別に、同じ施設を活用してインターンシップのような体験講習ができないだろうか。たとえば鉄筋について座学と組立作業を1日かけて学ぶとか。
- ・教師が生徒に教えられないのが現状であり、先生方に技術指導のための講座を開くことも必要だと思う。

第2回専門工事業担い手確保・育成委員会

(今後の取り組み)

- ・ 訓練施設として従来の大阪府立東大阪高等職業技術専門校をベースに出前講座の依頼があれば速やかに対応できる体制にしたい。将来的には各府県の組合が主体となり京都で依頼があれば京都の施設で、和歌山であれば和歌山の施設を活用し、地域が連携したネットワークの構築を目指したい。
- ・ 会員企業の新卒者を訓練施設で教育する場合、彼らの人件費は各企業が負担しているが、これがネックになって新入社員教育ができていないので、辞める原因の大きな要素となっている。ぜひとも国で助成金の検討をしていただきたい。このコンソーシアムでは様々なケースを想定し、試行錯誤を重ねて職人育成学校を目指して頑張ります。
- ・ 3団体の会員企業の新入社員など若手技能者を対象にした技能講習会等を開催し、各職種における人材育成を図っていくことも検討していく。そのための委員会を立ち上げる予定。

(古阪教授の総評)

若者にチャンスをどのように与えてあげるか。彼らの選択肢を増やしていろんな可能性を与えてあげることが大事であり、先生方にはそのための知恵を出して協力してほしい。

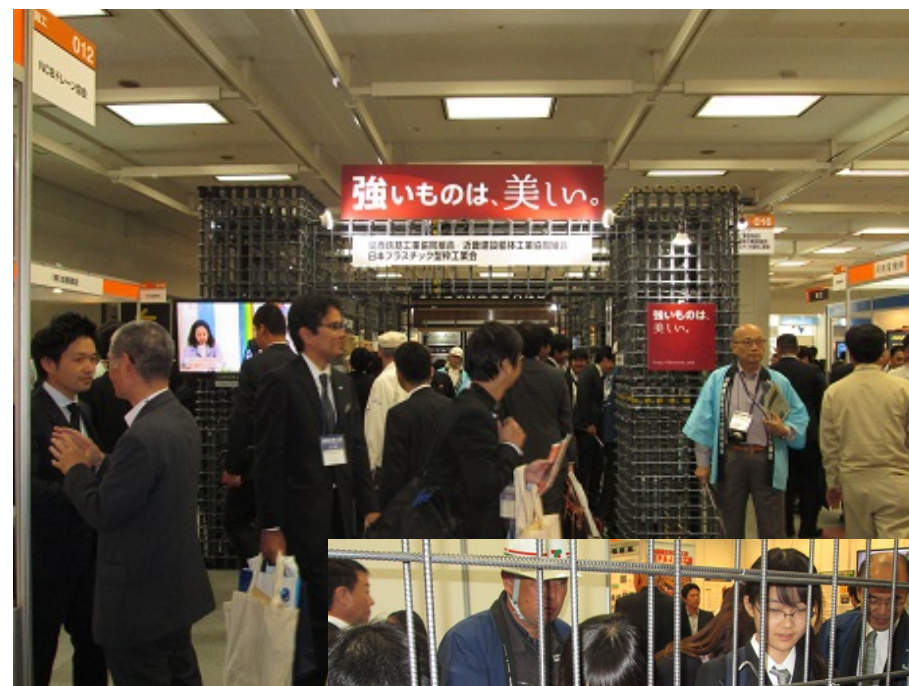
建設技術展への出展

平成27年10月28日・29日 マイドームおおさか（大阪市）で開催

○国や高速道路会社、ゼネコン、建設コンサルタント、メーカー、建設関係団体など153者が出展。2日間で延べ1万5000人が来場。

○広く一般の人たちにも業界のことを知ってもらうために鉄筋、躯体、圧接の3団体が連携し、鉄筋のモニュメントをはじめ体験コーナー等も設けたブースを出展した。

出展者を対象にした表彰では初めて注目技術賞を受賞するとともに、7年連続での受賞となったベストブース賞では殿堂入りした。



関西鉄筋工業協同組合

建設業務労働者就業機会確保事業

- 企業間並びに地域間における繁忙期と閑散期のギャップ（繁閑問題）を解消する上で建設技能者の処遇改善に大きな効果が期待される。
- 建設業の実態に即した現実的な制度運用が可能かどうかについてさらに検討を重ねる。
- 国交省が昨年12月に「建設労働需給調整システム及び多能工の活用による専門工事業者の繁閑調整手法の検討」の一環として、専門工事業者を対象にした工事実績などのアンケート調査を実施した。今後の展開に注目したい。

ご清聴ありがとうございました。

もっと知って！鉄筋工事のこと！

関西鉄筋工業協同組合